



国際医療福祉大学

2021年2月19日発行 学校法人国際医療福祉大学
<https://www.iuhw.ac.jp/>

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

International University of Health and Welfare

vol. 124
February
2021



医学部臨床実習の様子

新春のご挨拶

高木邦格理事長

大友邦学長・三浦総一郎大学院長、各病院長・施設長

看護学科教員がグループ医療機関など支援活動

医学部臨床実習 学生・教員アンケート

国際医療福祉大学・ 高邦会グループ理事長

高木 邦格



2021年を迎え、皆様にご挨拶を申し上げます。

本学グループは、世界中で感染拡大が続いている新型コロナウイルス感染症に対して、総力を挙げて、立ち向かうスタートとなりました。

1月8日に出された緊急事態宣言再発令の中、グループの6つの附属病院をはじめ医療福祉施設は、日々、コロナ対策に奮闘しています。昨年来、すでに多くのグループ病院でコロナ感染症の陽性患者様を受け入れてまいりましたが、さらに現在、国際医療福祉大学成田病院が陰圧設備を整備したコロナ病床を71床に増やしたをはじめ、国際医療福祉大学病院、国際医療福祉大学塩谷病院、国際医療福祉大学市川病院、国際医療福祉大学二田病院、国際医療福祉大学熱海病院の附属病院と山王病院を含め、合計175床を確保しております。PCR検査などの検査機器の導入を順次進め、グループ9病院に配置、現在では1日

あたり計1千件近い検査を可能としました。

さまざまなコロナ対策が実現できているのはグループの全教職員が、緊迫した医療の最前線に懸命に闘っているからにほかなりません。コロナ禍で、世間一般企業の多くの職種においてオンライン勤務が推奨され、自宅勤務が進められていますが、病院など医療福祉施設に勤務する、私たちグループ教職員はエッセンシャルワーカーとして、社会基盤・生活機能を維持するためには、過酷な最前線に立つことが避けて通れません。常に感染のリスクと対峙した環境の中、誇りを持つて多くの人の命と暮らしを守る仕事に向き合っていることに、改めて感謝を申し上げます。

また、各キャンパスの教職員のみならず、コロナ禍の中、感染防止策を徹底しながら、医療福祉のスペシャリストを育成しています。

本学の授業体制は昨年春の緊急事態宣言時は休校措置を取り、ほとんどの授業をオンライン授業で対応してきましたが、解除後は対面授業を原則としながらも、今年に入り再び緊急事態宣言が発令された自治体もあり、各キャンパスにおいてオンライン授業と組み合わせたハイブリッド型授業などを展開しています。

対面授業は学生の達成感が高い傾向にあり、より充実した指導ができると考え、3密を避け、感染防止対策を徹底して実施してきました。医療福祉の最前線が必要とされる専門職を育成するためには実践力を身につける演習や実習が欠かせないことから、本学は必要に応じて実習前のPCR検査を実施するなどの対応を取っています。

オンライン授業は学生から教員や他の学生と交流することがなく、メンタル面で不安を感じるとの声も寄せられましたが、リアルタイムで授業に参加でき、教員と学生がコミュニケーションを行える「同時双方向型」を実践しています。感染状況をにらみながら、地域ごとに

その時点における学力向上のための最善の方法を提供するよう努力してまいります。

医療の世界は厳しい側面があり、世界中で多くの医師・看護師ら医療職の先輩たちが、この瞬間もコロナ感染の患者様を救うべく奮闘の中にあります。学生の皆さんは、自分がその現場に立つたとき、何ができるか、何をすべき医療人になるのか。そのことを常に自問しながら、医療福祉の専門職として必要な素養を身につけ、豊かな人間性を涵養してほしいと願っています。

1995年に日本初の医療福祉の総合大学として開学した国際医療福祉大学は四半世紀を超え、さらに飛躍するステージに入ります。

栃木県大田原市にある大田原キャンパスを中心に、学びの分野は医療福祉のほぼすべてをカバーし、大学院生を含め在学学生は約1万人におよび、卒業生約2万7千人を輩出してきました。地域医療への貢献はもちろん、グローバルに活躍する医療人も多く、国内外で高い評価をいただいております。

昨年2月からの本学グループの新型コロナウイルス感染症に対する取り組みも、日本を代表するグループの一つとして、その評価を二層高めることになりました。

中国・武漢市からのチャーター便で帰国した邦人用宿舎となった税務大学校和光校舎に、医師と看護師を派遣、帰国者の健康管理などにあたったほか、集団感染が起こったクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」には、医師、薬剤師、看護師が乗り込みました。乗客からの検体採取や円滑な検疫サポートをはじめ、スタッフの健康管理や部屋の消毒方法の指導に携わりました。

国際医療福祉大学大学院長

三浦 総一郎



新年を迎え、新春のご挨拶を申し上げます。

今年は丑年ですが、丑の字は種から若い芽が出て絡み育つ様子を表していると言われます。昨年は新型コロナウイルス感染症により世界は大きな危機に直面しましたが、本年は是非これを乗り越えて丑のごとく力強く着実に復活の芽吹きを示したいと願っております。

本学大学院は、4研究科において医学や保健医療福祉における多彩な研究をカバーする50分野・100以上の領域やコースを有する我が国でも最大規模の医療系総合大学院として展開しております。現在、大学院在籍者数は970人を超え1000人以上の規模で運用をめざしており、修了生も昨年3月で通算約3600人に達し、東京赤坂キャンパスを中心に全国7つのキャンパスにおいて指導的役割を果たすことができる高度医療専門職の育成に努めています。特に社会人が「働きながら学ぶ環境の提供」について開学以来配慮しており、多様なキャリア提供を提供することにより利便性に努めて参

もとより国内外から、さまざまな医療ニーズに応える診療体制を充実させるとともに、1日最大200人を受け入れる日本最大級の予防医学センターをオープンしております。

2017年に開設した医学部は昨年、1期生が4年生となり、臨床実習が始まって医学部本院である成田病院をはじめ6つの附属病院や高木病院などでも実習が行われました。1期生は実習先の先生方からも高い評価をいただいております。世界水準を見据えた先進的な医学教育の成果が着々と出ていることを実感しています。再来年の2023年には初の卒業生が医師として羽ばたいていくこととなります。

今年4月から本学の体制が一部変わります。国際医療福祉大学福岡看護学部が姉妹校の福岡国際医療福祉大学に移管されます。また本学では初となる臨床工学技士を養成する臨床工学特別専攻科（1年生課程）を成田キャンパスに開設します。臨床工学技士は、人工呼吸器や人工心肺装置などの操作や安全管理に携わる専門職で、近年は医療機器の高度化などの影響もあり、これまで以上にその重要性が注目されています。

これで本学は栃木県大田原市、千葉県成田市、東京都港区赤坂、神奈川県小田原市、福岡県大川市の5キャンパスで10学部25学科1専攻科の体制となります。

新型コロナウイルスの猛威は今年も衰えることなく、本学グループにとっても引き続き試練の年となります。人類の歴史は、感染症との闘いの連続でもあり、常に人類の知恵と努力で克服してきました。日本のワクチン接種も始まり、そう遠くない将来には収束に向けた兆しが見えてくると信じています。教職員が一丸となつてこの難局を乗り越えてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。最後に、新しい1年が皆様方にとって充実した1年であり、ますますに祈念し、私のご挨拶とさせていただきます。

国際医療福祉大学学長

大友 邦



2021年の新春を迎え、皆様にご挨拶を申し上げます。

一昨秋以降、世界が新型コロナウイルス感染症に翻弄される中、国際医療福祉大学は昨年春の緊急事態宣言に対応してオンライン授業を導入し、感染が一段落した夏以降は可能な限り対面授業を再開するなど、大本来の役割を果たすために努力してまいりました。いち早くグループ病院に感染の有無を調べるPCR機器を設置し、教職員や学生が速やかに検査できる体制拡充も図ってまいりました。学生が臨床実習に行く際に検査が受けられる体制も整っています。1日も早い収束を願いつつ、本年も学生と教職員が安全・安心に授業・実習に取り組める環境整備に邁進してまいります。

昨年は本学開学25周年という節目の年であるとともに、医学部の本院である国際医療福祉大学成田病院（千葉県成田市、642床）が開院するという記念すべき年にもなりました。成田病院は本学の6つ目の附

属病院であり、本学の教育を支える重要な臨床実習の現場となります。これまでも臨床実習の施設が国内で最も充実し、教育の質の高い大学として高評価を受けてきましたが、さらなる実習充実が期待されています。

医学部（17年開設、1期生の4年次からの臨床実習も昨年、成田病院などで始まりました。実習先の先生方からは「患者様だけでなく他職種とのコミュニケーション能力も高い」「医学的な知識も豊富で、特に症候から鑑別診断をあげる能力に優れている」といった高い評価をいただいております。これも学生が主体的に学修を進めるアクティブラーニングを基盤とし、世界水準を見据えた先進的医学教育の成果と自負しております。

今年4月には臨床工学技士を養成する「臨床工学特別専攻科」を成田キャンパスに開設します。臨床工学技士は人工呼吸器や人工心肺装置、血液透析装置などの操作や保守点検を行う専門職で、新型コロナウイルス感染症の重症患者への切り札とされる体外式膜型人工肺（ECMO）を扱うことができる職種としても注目されています。千葉県内では養成施設が1校しかないなど、特に同県内の臨床工学士の深刻な不足状況に鑑み、開設を決めました。また今年4月には本学福岡看護学部が姉妹校の福岡国際医療福祉大学に移管され、「福岡国際医療福祉大学看護学部」と名称が変わり、新たにスタートいたします。福岡看護学部はこれまで、本学大川キャンパスと連携してきましたが、今回の移管で、両キャンパスの距離が離れているため学生交流や施設使用が制限されるといった課題の解消をめざしております。

新しい年も教職員一同、精いっぱい努力してまいります。一層のご支援、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

りましたが、今後もこの強みを生かして大きく変容する我々のライフスタイルに巧みに適応できる多彩な学びの機会を提案してゆきたいと考えております。

本年4月には医療福祉学研究科に医療機器イノベーション分野を開設予定ですが、今後も医療分野においてニーズの高い新規領域の開拓を企画しており、昨年新設された国際医療福祉大学成田病院をはじめとする充実した臨床実習環境と豊かな学際性を生かして、日本をリードする国際的な「知の医療交流拠点」としてしっかりと役割を果たせるように力を尽くす所存であります。

20年後の我が国では人生100年時代が本格的に訪れると言われています。その際には我々はsocial 5.0という人と物と情報が一瞬時につながる全く新しい次元の社会の中で行動を大きく変容させていると想像されます。そこでは若い頃の一度の学習では不十分であり、人生の二度三度の学び直しによる生涯教育が必要とされ、高等教育の重要性が益々認識されるようになり、特に大学院で学ぶことの大切さがクローズアップされるのではないかと信じております。このような想像もできないような創造性に満ちた時代を迎えるにあたり、大学院がシンクタンクとして大学教育を牽引する役割の重要性を明確に自覚しなければならぬと考えております。一方で我々は、個々の学習者のニーズと能力に寄り添い個性を十分に生かした柔軟な教育の提供に努力するとともに、社会へその研究成果を還元して社会の実装化に役立つ研究を開花させる大学院をめざす必要があるとも考えております。どうぞ本年も皆様のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

新春のごあいさつ

山王病院では、本年1月より、東京大学医学部産婦人科学教室主任教授を務められた藤井知行先生が病院長に就任しました。なお、12年間で尽力いただいた堤治前病院長は、名誉病院長として引き続き診療にあられます。

山王病院 病院長
藤井 知行

本年1月より、医療法人財団 順和会山王病院病院長に就任いたしました藤井知行と申します。山王病院は、国際医療福祉大学の臨床医学研究センターの1つとして、1937年の創設以来、オープンで安心な思いやりのあるプライベートホスピタルとして歴史を築いてまいりました。そのような伝統ある病院の病院長を務めることとなり、身の引き締まる思いであります。

さて、本来であれば、さらなる飛躍をめざして1年がんばりますとご挨拶申し上げるところですが、昨年2月ごろから始まった新型コロナウイルス感染症の流行は収

まるどころか拡大する一方で、年を越えても、なお、私たちの健康を脅かし続けています。海外でワクチン接種が始まり、流行の拡大に歯止めがかかるのではないかと期待が高まっていますが、その効果とリスクについては、まだ未知の部分が多いようです。そうした状況の中、病院は大きな負担を強いられています。

このウイルスにかかった患者様への対応が大変なことはもちろん、当院職員が感染し、院内で感染を拡大させることも絶対に防がなければならず、医療従事者は気の休まる暇がありません。さらに、患者様の受診控えなどにより、病院の収入はどの病院も落ち込んでいます。私が専門とする産科領域でも、妊娠控えにより、分娩予約数が全国的に20%も減少している状況です。

しかし、弱音を吐いている場合ではなく、今こそ、私たち医療従事者の矜持が問われているときだと考えています。今年1年、がんばってまいります。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

藤井 知行（ふじい ともゆき）

山王病院 病院長

国際医療福祉大学 大学院教授

◆専門分野・産婦人科（周産期医学、生殖免疫学）
◆経歴・東京大学卒、医学博士。前東京大学医学部産婦人科学教室主任教授、公益社団法人 日本産科婦人科学会前理事長・監事、東京都周産期医療協議会会長、米国シアトル市フレッドハッチンソン癌研究所ヒト免疫遺伝学部門留學

◆専門医資格等・日本産科婦人科学会認定指導医・産婦人科専門医、日本周産期・新生児医学学会認定指導医、周産期（母体・胎児）専門医

看護学科教員が
グループ医療機関など支援活動

新型コロナウイルス感染拡大による医療体制などの逼迫に伴い、国際医療福祉大学保健医療学部看護学科の教員が1月中旬から、宇都宮市保健所や、栃木県内の本学グループの医療機関・施設への支援を始めた。

再度の緊急事態宣言が1月8日に出される中、厚生労働省や栃木県のほか、本学法人本部からも支援要請があった。昨年末ごろから、看護学科の教員からも「私たちに何かできないか」との声が上がり、看護学科38人の教員のうち、看護師や保健師の資格を持つ計29人が携わるることになった。



●塩谷病院駐車場での発熱外来対応

宇都宮市保健所では教員4人が2人ずつローテーションを組み、陽性者や濃厚接触者に対する健康観察などを担当。自治医科大学、独協医科大学とチームをつくった。支援は2月初旬まで。

支援要請があった栃木県内の本学グループの医療機関・施設は国際医療福祉大学病院、塩谷病院、しおや総合在宅ケアセンター1、なす療育園。教員25人が各医療機関・

施設に分かれて支援チームを組み、毎日1〜3人がそれぞれの場所で看護支援活動を展開。国際医療福祉大学病院と、しおや総合在宅ケアセンターでは、高齢者の見守り・ケアに従事している。入院する高齢者はコロナ感染防止対策で家族との面会ができなため、精神状態が不安定になるケースが増えている。これが原因で徘徊したり食欲が減退したりすることを防ぐため、話し相手になるなどして不安を解消。ご家族とのやり取りの補佐役も果たしている。塩谷病院では発熱外来受診者の対応、なす療育園ではシーツ交換や経管栄養剤の作成にあたっている。

2月中旬以降には他キャンパス看護学科から教員のほか、学生3、4年生も看護助手アルバイトとして支援に加わり、成田病院、三田病院への派遣も予定。支援活動は3月末まで行われることになっている。

保健医療学部看護学科の野呂千鶴子学部長は「グループ医療機関・施設などから感謝の声をいただいている。このような活動が今後、看護学科と支援先との関係性を一層深め、実習や就職にもよい影響を及ぼしていくように思う」と話している。

臨床工学特別専攻科の開設認可、
「資格プラス学位」のキャリアパスも

医療現場のエンジニア「臨床工学技士」を養成するため、本学成田キャンパスに2021年4月の開設準備を進めてきた「臨床工学特別専攻科」は、正式認可にあたる文部科学大臣の指定をこのほど受

新春のごあいさつ

高木邦格理事長／
大友邦学長／三浦総一郎大学院長

トピックス

山王病院 藤井知行病院長 新春のごあいさつ
看護学科教員がグループ医療機関など支援活動
臨床工学特別専攻科の開設認可、「資格プラス学位」のキャリアパスも
行事予定のお知らせ

医学部臨床実習 学生・教員アンケート

キャンパスレポート

大田原 緊急事態宣言発令に伴うキャンパスでの対応／防災訓練を実施

成田 渋谷教育学園幕張中学校・高等学校が来訪、医学部見学と模擬講義を体験／公開講座を実施／成田キャンパス同窓会が発定 第1回同窓会幹事会を開催

東京赤坂 就職支援イベントを開催／現役公認心理師によるキャリアデザインクラス／診療情報管理士認定試験に向けた特別補講を実施

小田原 小田原市・国際医療福祉大学代表者懇談会／関連職種連携

福岡 学生団体による動画での地域交流活動／留学生間交流会をオンライン開催

大川 九州地区で冬の留学生交流会を開催／海外保健福祉事情 希望国調査説明会をオンラインで実施

施設インフォメーション 新年のごあいさつ

国際医療福祉大学病院／塩谷病院／成田病院／三田病院／市川病院／熱海病院／国際医療福祉リハビリテーションセンター／新宿けやき園／高木病院

施設インフォメーション トピックス

国際医療福祉大学病院／成田病院／市川病院／塩谷病院／三田病院／熱海病院／山王病院

キャンパスブラスー クラブ・サークル紹介
スポーツコンディショニング部（小田原キャンパス）
バレーボールサークル（小田原キャンパス）

行事予定のお知らせ

【令和2年度 学位記授与式】

■学部／大学院 学位記授与式

・大田原キャンパス（学部・大学院）
日時：令和3年3月11日（木）
10：20～（保健医療学部）
14：15～（医療福祉学部・薬学部・大学院）
会場：那須アスリーナ（体育館）1階
・成田キャンパス（学部・大学院）
日時：令和3年3月14日（日）10：20～
会場：成田キャンパス 体育館

・小田原キャンパス（学部・大学院）
日時：令和3年3月12日（金）10：20～
会場：本校舎6階講堂
・福岡キャンパス・大川キャンパス（学部・大学院）
日時：令和3年3月9日（火）13：00～
会場：福岡国際医療福祉大学 体育館

■大学院 学位記伝達式

・東京赤坂キャンパス
日時：令和3年3月13日（土）16：00～
会場：東京赤坂キャンパス 講堂

■卒業式

・塩谷看護専門学校
日時：令和3年3月3日（水）10：00～
会場：塩谷看護専門学校 講堂

※新型コロナウイルスの感染状況により、変更が生じる可能性があります。

医学部臨床実習 学生・教員アンケート 「プレゼン・鑑別診断の能力」高く評価

医学部4年生の臨床実習が昨年6月から始まった。学生が主体的に学ぶアクティブラーニングや、基礎医学の科目をすべて英語で学ぶといった革新的な教育を受けてきた本学医学部生。これまでの学修の成果が臨床実習にも表れ、実習先でも高い評価を受けている。学生と指導教員の一部を対象に、成田キャンパスが実施した臨床実習に関するアンケート内容を紹介する。

指導教員の声

■臨床実習で3年間の成果を 実感した場面は？

石井教授：整形外科では身体
の扱う範囲も広く、また病気が
豊富です。整形外科の専門
用語や代表疾患の基礎知識
がすでに身につけていることに
驚かされるばかりです。

大平教授：本学では1年生から
医療面接の授業、実習があり
ますが、患者様との信頼関
係を短期間で上手に構築する
姿を見て、教育の成果を感じて
います。臨床推論力も高く、診
断について指導医と有意義な
議論を行うことができています。
河村教授：皆、たくましく、顔
つきが良くなりました。1、2
年生のころは、毎回、定期試験
をギリギリでパスしていた学生
が、現場では教室にいたのとは



●河村朗夫教授



●大平善之教授



●石井賢教授

打って変わって生き活きと学んでいるのを目にし
ます。
倉橋教授：臨床の現場で患者
様のケースについてディスカッショ
ンしていると、「あ、あの科目で
習った」と言ったり、「ちょっと待
ってください」と言ってみて
いたノートを見返したりする学
生に出会います。

●倉橋清泰教授

■他大学の実習生と比べ、 本学の学生ならではの感じたことは？

石井教授：医療に関する知識だけでなく、広い
見識を持っています。さまざまな国からの留學
生の存在により、国際感覚を持ち、国際標準の
医療人としての自覚があるように感じます。

大平教授：患者様はもちろん、他職種とのコミュ
ニケーション能力が高く、外来や病棟で医療チームに
溶け込むのが上手だなと思います。医学的な知識
も豊富で、特に症候から鑑別診断をあげる能力に
優れていると思います。

河村教授：とにかく一生懸命です。プレゼン能力
も高く、他大学出身の教員は「えっ、4年生でこ
れだけできるの!」と驚いています。プレゼンに対
する質問も「こりや学会レベルじゃないか」と思
うような高度な質問が飛び交っています。

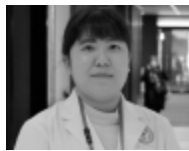
■英語で医療を学んだことが生かされていると 感じた場面は？

大平教授：課題を出す、検索してくる文献が
英語の論文であることでしょうか。日本語の文献
検索で済ませてしまうこともできるのですが、本
学の学生は英語に苦手意識がまったくないので、
英語での幅広い情報収集が可能であると思います。
倉橋教授：疑問に思ったことを調べる際、英語の
教科書を提示してもずっとページを繰っている姿
を見ると、本学の学生にとっては言語の壁はかな
り低いのだと感じます。

学生の声

■3年間の学修成果を実感した場面は？

西嶋さん：OSCEの前に
何度も反復して行った手技
の練習が、実際に患者さんの
身体所見をとったり採血を
したりする際に役に立った
と思います。また、臨床推論
の授業で学んだ鑑別診断の考え方が、外来見
学やカンファレンスなどで患者さんの病態を
考える際に重要だということを強く感じま
した。



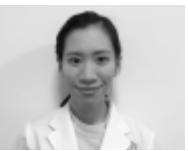
●西嶋亜未さん

細野さん：カルテからの事前
情報なしに担当患者さんの
病態把握を指示されました。
呼吸状態が悪く問診も満足
にできませんでした。とはいえ、
戸惑っているばかりでは駄目だと思い、よく観察
し所見も取らせていただきました。そして、さま
ざまな可能性を除外し、病態と病名が理解で
きたときに、過去の学修の成果を実感しました。



●細野杏介さん

宮下さん：本学はアクティブラ
ーニングを重視しており、普段
の授業でもプレゼンテーションを
する機会が多くあります。自
分の担当患者さんの症例発表
をした際「プレゼンテーションが
上手だね」と先生方にほめていただいたこともあ
り、今まで練習をしてきて良かったと思いました。



●宮下渚さん

横倉さん：医療面接や身体診察の練習は1
年次から授業に積極的に取
り入れられていたため、大ま
かな流れが身につけていまし
た。英語でも日本語でも繰
り返して練習していたので、
臨床実習で実際に患者さん



●横倉梨花子さん

を相手にしたときも比較的スムーズに行うこ
とができました。

■臨床実習中に自分が「成長した」と 感じたことは？

西嶋さん：実習が始まって今までは何となく
していた勉強に、目的を持って取り組めるよ
うになったことは自分の中の変化であるよ
うに感じます。

細野さん：まだ知らないことはかなりで、些細なこ
とも新鮮に感じられるので、毎日が成長の日々
だと考えています。

宮下さん：先日初めて、転移性脳腫瘍の原発巣
を探すべく腫瘍マーカーのオーダーを自分から
提案することができました。

横倉さん：私は初対面の方と話すことがあま
り得意ではありませんでした。しかし、患者さん
や先生方、他職種の方とコミュニケーションをと
っていくうちに緊張せずに話すことができるよ
うになりました。

■将来どのような医師になりたいですか？

西嶋さん：「患者さんご本人だけでなくご家
族の心にも寄り添えるような医師」を理想
の医師像として、日々勉強しています。また、
私たちは7人に1人が留学生という環境で
学んでいます。将来はその経験を生かし、ア
ジアを中心とした国境を越えた包括的な医
療にも携われたらと考えています。

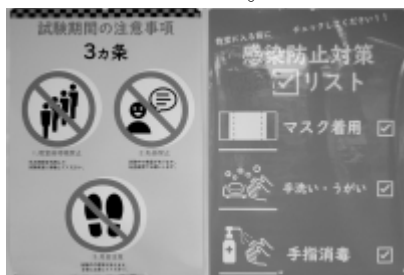
宮下さん：卒後はアメリカでのレジデンスシ
ップにチャレンジしたいと思っています。
アメリカで最先端の医療に触れ、多くの症例
を経験することで、幅広い視野を持った医師
になりたいです。また、大学で学んだ英語での
医療面接、身体診察のスキルを生かし、英
語を母国語とする患者さんにも言語の壁を
感じさせないような安心できる医療を提供
できるようになりたいです。

第123回 大田原 キャンパスレポート

緊急事態宣言発令に伴う キャンパスでの対応

2021年の年明け以降、全国的に新
型コロナウイルスの感染者が急増したこ
とから、政府は11都府県に2度目の緊急
事態宣言を発令した。

そのため栃木県にある大田原キャン
パスをはじめ、本学すべてのキャンパスが
対象地域となり、後期定期試験や大学入
試の日程が緊急事態宣言の期間と重なる
ことから、それぞれのキャンパスにおい
て、学生が安
全に試験を受
けられるよう
に感染防止対
策を徹底した。



●ポスターによる注意喚起も実施

大田原キャン
パスでは、
同時時間帯に構
内に滞在する
学生数を抑制
するために、
前期定期試験と同様に、後期定期試験で
も午前・午後でなるべく学生が入れ替わ
るように試験時間を調整し、分散登校を
図った。

また、授業再開時より実施している全

学生対象の登校前体温チェックに加えて、
建物入口にサーマルカメラを設置して、発
熱者、体調不良
者の確認が速
やかに行える
体制を整備した。
その他、感染
注意を喚起す
るポスターを
学生の目につ
く場所に数多
く掲示するなど、
学内での感染
防止のために不可欠な行動を徹底させた。



●設置されたサーマルカメラ

大田原キャンパスが会場となつてい
る1月16日から大学入学共通テストおよ
び1月28日からの一般選抜前期などの入
試においては、教室の収容定員を大きく
減らし、隣との間隔を広げて密にならな
いレイアウトとした。また、体調不良者
向けに別室を設けて試験が実施できる環
境を整えることで、受験生に不利益とな
らない対策を講じた。

幸い、後期定期試験、入試のいずれに
おいても大きな混乱はなく、学生、受験
生が安心して試験に取り組み無事終了す
ることができた。しかしながら、新型コ
ロナウイルスの感染拡大が依然として止
まる気配を見せず、この先も収束する見
通しがたっていないことから、気を緩め
ることなく引き続き感染防止に向けて取
り組んでいきたい。

(総務課 川上二郎)

防災訓練を実施

大田原キャンパスでは、12月28日の年
の瀬に防災訓練を実施した。今回は新型
型コロナウイルスの感染リスクを考慮して、
学生の参加を見送り、教職員のみが参加
する小規模な訓練となった。

例年は、多くの学生参加を見込める秋
の大学祭開催前のタイミングで訓練を実
施しているが、今年度は新型コロナウイルス
の影響で大学祭が中止となつてしま
ったため、それに伴い防災訓練もいつた
んは実施を断念
していた。なお、
昨年は台風19号
の影響により訓
練を中止していた。
今年度も防災
訓練を実施しな
かった場合、2
年間訓練を行わ
ない状態となる
ことから、防災
対策委員会では
教職員の防災意
識が低下してい
くことを憂慮して、暮れも押し詰まった
時期ではあったが、急遽実施することと
した。



●緊急時における機器類の停止操作を説明

当日は参加者の密を避けるために、自
衛消防隊を編成する班単位に分散させ、
現場ツアー形式をとった。また火災発生
を想定して、各班長がリーダーシップを

發揮して所属する班の役割や被害拡大防
止のための動作確認などを行った。参加
者の中には今回初めて経験する職員もい
たが、全員が指示
に従って各自の役
割を果たし、無事
終了することがで
きた。



●班長より自衛消防に関する心構えを説明

今回の訓練は、
例年とは異なる特
別な環境での実施
となったが、その
ような状況におい
ていかに行動する
かが理解できる貴
重な機会となった。
将来的には、学
生、教職員だけの
参加に留まらず、大学の枠を超え、関係
する近隣の自治体や県などの公的機関を
はじめ、地域住民とも一体となった大規
模訓練をぜひ実施していきたい。

大学施設内において、学生の留まる場
所は常に流動的であり、有事の際に正確
な安否確認がその特性上困難であること
から、教職員と学生の連携が大変重要に
なってくる。そのためには、先の見えな
い新型コロナウイルス感染症が一刻も早
く収束して、今秋に従来どおりの学生参
加による防災訓練を実施することが不可
欠であり、それができることを願ってい
る。『明けない夜はない』を信じて。

(管理課 平山義典)

第21回

成田

キャンパスレポート

渋谷教育学園幕張中学校・
高等学校が来訪、
医学部見学と模擬講義を体験

渋谷教育学園幕張中高の生徒16人と教員2人が12月25日、本学医学部を訪れた。

前半は、河上裕医学部長が「大
学紹介・医学部
説明」と「英語
による模擬講義」
を実施した。

後半は、2つのグループに分かれて、法医学に関するミニ講座の受講と世界最大級のシミュレーションセンター「SCOPE」の見学を交互に行った。本村あゆみ講師によるミニ講座は「人の死を科学する」と題し、死体にまつわる法医学の役割を紹介。「SCOPE」の見



●SCOPEを案内する小林元講師



●河上医学部長による模擬講義

学では、シミュレータの心臓音を聴き分ける体験をした。

(広報課 金井雅之)

公開講座を実施

成田キャンパスでは、今年度も公開講座を開催し、市民の皆様にも、医療・看護・リハビリなどの最新情報を届け、自身や家族の健康作りに役立てていただいている。

第5回 12月2日実施

「東日本大震災における福島原発事故住民サーベイ活動」風化させないためにあの時、我々は」

放射線・情報科学科 市川重司教授

「令和時代の放射線治療」

放射線・情報科学科 伊藤照生教授

放射線・情報科学科による初めての公開講座として開催された。

前半は、発生から間もなく10年を迎える東日本大震災における福島第一原子力発電所事故を振り返った。事故発生直後に現地に

入った市川教授が、避難所などでの支援活動の実態を通して、当時の災害状況をスライド写真などで紹介した。

後半は、昨今の放射線治療の



●市川教授による講演の様子

現場から、最新機器を紹介するとともに、その治療効果が説明された。

参加者は、人体に恐ろしい悪影響をもたらすと同時に、用途によつては治療に大きく貢献するという、放射線の持つ二面性を再確認していた。



●伊藤教授による講演の様子

第6回 12月25日実施

「生活を豊かにする福祉用具・福祉機器」

作業療法学科 圓純一郎講師

初めに、スライドを用いて福祉用具・福祉機器の種類や性能のほか、介護保険制度が紹介された。

その後、実際の福祉用具・福祉機器を参加者に実体験していただきながら、その使用方法や効果について説明が行われた。

初めて目にする福祉用具・福祉機器も多く、参加者は「もし身体どこかに不自由が生じてしまったら」を想定しながら、それぞれの使い方を確認していた。



●圓講師による講演の様子

(総務課 今井康介)

成田キャンパス同窓会が発足
第1回同窓会幹事会を開催

成田キャンパスでは昨年3月に初めての卒業生を輩出したことに伴い、同窓会が発足した。これを受けて、12月5日、第1回の同窓会幹事会を開催した。卒業生幹事の皆様には、新型コロナウイルスの影響で勤務調整などが難しいなか、時間を作っていただき、無事に開催にこぎつけることができた。

まず、同窓会の代表幹事を選考し、作業療法学科1期生の庄司聖さんが選出された。続いて、現在の医療現場での活動状況をそれぞれ報告いただいた。

今後は、各分科会で勉強会や交流の場を設けていけるようサポートしてまいりますので、卒業生の皆様は企画などのお知らせが届きましたら、進んでご参加をお願いいたします。



●同窓会幹事会の様子

(成田キャンパス同窓会事務局)

第9回

東京赤坂

キャンパスレポート

就職支援イベントを開催

オンライン面接対策講座

新型コロナウイルス感染症の影響で、オンラインでの採用面接を実施する病院や企業が増えている中、東京赤坂キャンパスでは就職支援の一環として、12月16日に「オンライン面接対策講座」を実施した。

当日は、人事研修室のチーフインストラクターであり、キャリアコンサルタントの別府美知子先生が講師となり、オンラインで採用面接を受ける際の準備や心構え、注意事項などについて説明いただいた。講座では「身だしなみ」のほか、「目線」「話し方」「部屋や画面の明るさ」「背景」などをどのようにすればよいかについて話があり、参加した学生たちは、メモを取りながら熱心に説明を聞いていた。また、個人面接だけでなく集団面接の場合の対応方法や、実際の失敗談なども聞くことができ、とても参考になったようだった。

国際医療福祉大学グループ

就職説明会

東京赤坂キャンパスでは12月22日、23日に、心理学科、医療マネジメント学科の学生を対象とした本学グループ病院・施設の就職説明会を実施した。

本学グループの病院や施設の「業務内容」

「採用スケジュール」「福利厚生」「心理職や医療事務・医療経営スタッフとしてどのように活躍できるか」などについて、本学の人事部職員より詳しく説明があり、参加した学生たちも熱心に話を聞いていた。

説明会に参加した心理学科3年の宮悠貴さんは「新型コロナウイルスの影響により心理的不安が人々に降りかかっており、心理職は今後必要となってくる職業だと感じた。一方、公認心理師はまだ新しい資格なので私たちがこれから公認心理師の地位を確立していかなければならないと思った。そのためにも現在の状況について広く情報を収集し、自己分析から自身はどのように貢献できるのかを考えていく必要がある」と感想を述べた。



●説明会の様子

そのほかにも、「関連施設・病院の見学をしてみたい」「就職に対しての具体的なイメージができた」など、学生から多くの感想が寄せられた。日頃から医療や福祉について学んでいる学生たちにとって貴重な経験となった。赤坂心理・医療福祉マネジメント学部の高学年である1期生は、現在3年生となつた。先輩がいない中、初めての卒業生として就職活動に不安があるのは自然なこと。私たち事務職員や教員が、少しでも3年生の就職活動に対する不安がなくなるように、精一杯サポートをしていきたい。東京赤坂キャンパスでは、今後も随時、就職支援イベントを実施していく予定だ。

(事務部 野原大彰)

現役公認心理師による
キャリアデザインクラス

心理学科では1月6日、1・2年生を対象に、東京海上日動メディカルサービス株式会社ヘルスケア本部事業推進部企画課長で公認心理師・臨床心理士の有資格者である広瀬康司先生をゲストスピーカーとして招き、キャリアデザインクラスを行った。このクラスは1年生の必修科目「心理学入門演習」と2年生の必修科目「心理学初級演習」の合同授業として実施した。



●熱心に聞き入る学生たち

広瀬先生は、公認心理師の職域のうち「福祉」「医療保健」「教育」の各領域の経験をj経て、現在は産業・労働領域での仕事に従事。自身が心理職をめざしたきっかけや、心理職の業務について、実際の事例を紹介しながら説明いただいた。さらに、自身のキャリアを振り返る中で感じた「キャリアドリフト」「キャリアの掛け算」「Work in Life」という3つのキーワードを紹介し、キャリアを考えるうえで必要な知識や意識の持ち方について、わかりやすくお話しいただき、学生たちは真剣なまなざしで聞いていた。



●講師の広瀬康司先生

学生からは「キャリアデザイン」の3つのキーワードの話がとても興味深く、自分にとって新たな学びとなった」などの感想が聞

かれ、これからキャリアを考える学生たちにとって有意義な機会になったようだ。また、同日に3年生を対象とした、本学大学院臨床心理学専攻の説明会も実施。学部卒業後に公認心理師の資格取得をめざし大学院進学を希望する学生(会場とオンラインを合わせ約30人)が参加した。大学院のカリキュラムや実習、学内推薦入試などについて説明があり、進路選択が間近に迫った3年生は熱心に耳を傾けていた。

(広報部)

診療情報管理士認定試験に
向けた特別補講を実施

医療マネジメント学科3年生を対象に、1月12日、診療情報管理士認定試験に向けた特別補講を実施した。大田原キャンパスの医療福祉・マネジメント学科の山本康弘副学科長をはじめ、医療マネジメント学科の坂本千枝子准教授と後藤清貴助教が講師となり、模擬試験の解説や問題演習などを中心に行われた。山本副学科長は「試験まで残り少ないが、私たち教員と一緒合格をめざして頑張りましょう」と学生にエールを送った。



●質問に答える山本副学科長

第14回診療情報管理士認定試験は2月14日に実施され、医療マネジメント学科からは初めての受験となる。

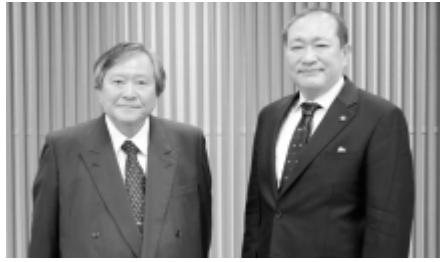
(広報部)

第54回 小田原 キャンパスレポート

小田原市・国際医療福祉大学 代表者懇談会

小田原市と本学との代表者懇談会が11月4日、開催された。

小田原市からは守屋輝彦市長、鳥海義文副市長、玉木真人副市長を含め14人が出席した。本学は高木邦格理事長、大友邦学長をはじめ、池田佳史熱海病院長、黒澤和生学部長、横島啓子看護学科長、森田正治理学療法学科長、藤本幹作業療法学科長を含めた12人が出席した。



●高木理事長と守屋市長

守屋市長は、神奈川県議を経て昨年5月に第23代小田原市長に就任された。就任早々の昨年7月には、小田原キャンパスの新生に「世界が憧れるまち『小田原』」と題して、地域の歴史、文化等に関する講義を行っていただいたことについて懇談会の冒頭で、高木理事長から守屋市長にお礼を述べた。

続いて本学の現況について杉田昭博事務局長から説明を行い、黒澤学部長からは、今後も臨地実習を含めた教育課程全般について、市からの意見・提言をお願いした。また、市内の無料WiFi整備や、本学及び市内中高生の通学路整備についても検討をお願いした。

小田原市からは、お城通り地区再開発事業や市民ホール整備事業などの主要事業について説明があった。本学卒業生の市立病院など地元医療機関への就職に対するさらなる期待も述べられた。また、本学教員が参画している小田原市の支援教育相談や子育て支援事業など、さまざまな活動について市から感謝の言葉をいただき、大学として今後も積極的に協力していくことを約束した。

歴史があり文化財が豊富な小田原市は、点在する文化財をつなぐ回遊路設置を進めている。小田原キャンパス城内校舎にも「小田原城天神山回遊路」を設置するために、本学と協議を続けてきた。今年3月には開通し、近隣住民をはじめ、訪れた方が回遊路を楽しめることになる。

小田原キャンパスは、開設から15年が経ち、今までのさまざまな取り組みにより地域に根付くことができている。今回の会議は、今後も小田原市と大学が積極的に連携し、協力し合うことが確認される場ともなった。

(事務局 小柳津恵)

関連職種連携論

小田原保健医療学部では、10月5日から1月12日まで、計15回にわたり2年次必修科目の「関連職種連携論」の授業が行われた。本科目は同じ場所でも学び、お互いから学び合いながら共通の目標である「対象者・利用者のQOL（クオリティ・オブ・ライフ）の向上」をめざす協働（TPW: Interprofessional Work）について学修するもので、4年次の「関連職種連携実習」につながる本学独自の「関連職種連携教育」カリキュラムを実践する重要な科目である。



●グループワークの発表をする学生

日程の前半では、それぞれの専門職の役割・機能と職種間の連携の意義について学び、後半では学科横断で30チームを構成し、それぞれに与えられた症例についてグループワークを行い、各職種の関わり方・多職種でのアプローチの仕方を検討した。学科横断のチーム編成により普段は関わることの少ない他学科の学生と積極的にディスカッションをすることによって、

自職種の役割・強みを再認識し、他職種との連携の難しさ・協働作業のおもしろさを学んだ。グループワークの集大成となる「まとめ」をポスター発表として掲示した後、学生同士が評価し、評価点の高かったグループが履修者全員の前で発表を行った。

今後の医療福祉分野では、さまざまな職種がさらに高度化・専門化していく一方で、医療福祉の対象者・利用者を中心としたチーム医療・チームケアの提供が求められる。授業を通しての気づきから新たな学びを見だし、将来は自らも「チーム医療・チームケア」を担う一員となることの自覚を持ち、今後のさらなる学修に生かしていくことを期待している。

(学務課 澤崎瑞穂)



第45回 福岡 キャンパスレポート

学生団体による 動画での地域交流活動

今年度は新型コロナウイルス感染拡大を受け、対面による地域交流の実施ではなく、新しい生活様式の中で今できる取り組みを行った。「地域貢献活動」福岡看護学生による「〜というテーマで、学生団体による動画を3本立てで企画。大学のホームページに掲載し情報発信すること、地域に貢献できる活動を行う〜」に活動を行った。



動画の内容は、地域交流委員によるキャンパス風景、救急医療部による「一般向け+コロナ禍BLS」、折り紙サークルによる「おうち時間〜できる折り紙〜」。学生はZoomのミーティング機能や後期授業で登校できた日などを利用して、感染予防に努めながら団体メンバーと動画作成を行った。内容確認が終了し、現在大学のホームページで配信する準備を進めている。配信は今年度3月末までの予定である。

(地域交流委員会 委員長 仙波洋子)

留学生間交流会を オンライン開催

福岡看護学部では、留学生が学生生活に適應することをめざし、留学生間交流会を実施している。今年度2回目の交流会は、1月8日に対面開催を予定していたが、近年まれにみる大雪で、全授業がオンライン実施に変更となったため、Zoomでの実施となった。韓国・中国出身の留学生計5人と、国際交流委員会の教員が参加した。

まずは4年生が、自分たちの経験を語った。入学当時、日本語が難しく授業の内容が半分も理解できなかったことや、友人とのコミュニケーション方法、試験対策などについて話した。

1年生は、前期は自国から出られず10月末に入国し、ようやく日本の生活に慣れ、学修に向き合えており、授業の日本語はわかりやすいが、教科書の漢字が難しいと語った。1年次から始まる実習についての質問もあった。上級生は、自分の経験を話し、ポケットに入る手帳を準備し、重要事項をメモすることなど、アドバイスもしていた。

そのほかにも、下級生からは海外保健福祉事情や卒業研究（本学部では選択）、国家試験対策、就職活動などについて質問が出された。4年生は、将来働く際に研究能力が必要となるため、卒業研究を選択し取り組んだことや、国家試験に向けた勉強方法、就職先の選び方についても助言した。

交流会に参加した留学生は「学修や日常生活での課題や対策を共有できて良かった」と感想を述べた。次回は対面で開催し、より交流が深まることを祈っている。

(看護学科准教授 森山ますみ)

第60回 大川 キャンパスレポート

九州地区で 冬の留学生交流会を開催

九州地区の留学生交流会を12月26日に開催した。福岡地区から留学生（福岡キャンパス、福岡国際医療福祉大学）、日本人学生および教職員の計11人、大川地区からは留学生（大川キャンパス、留学生別科、成田キャンパス医学部、大川看護福祉専門学校）、日本人学生と教職員を合わせた40人、総勢51人が参加した。交流会は、感染対策から対面形式（地区別）とオンライン形式（地区合同）を組み合わせて実施され、日本の年末年始文化の体験や、留学生出身国の年越し事情が紹介された。



●交流会終了後の記念撮影

年賀状作りでは、初の習字体験で緊張していた留学生たちも、日本人学生の手ほどきで納得の1枚を仕上げた。各国の年越し事情紹介では、派手に水を掛け合って1年の汚れを清めるミヤンマーのお正月などユニークな習慣に驚く場面も。初詣に代えて試みた太宰府天

満宮のバーチャル参拝では全員そろって神妙に祈りを捧げた。最後は留学生有志の演奏や合唱動画の上映で和やかに会を終えた。終了後のアンケートには「対面で楽しかった」「日本人学生と親しくなれた」と喜びの声が寄せられた。

(留学生サポートセンター 宮崎至恵)

海外保健福祉事情 希望国調査説明会を オンラインで実施

大川キャンパスでは12月19日、1年生を対象に、次年度の海外保健福祉事情の渡航先を決める希望国調査説明会をオンラインで実施した。2021年度は福岡薬学部の学生が初めて参加する年度を迎えることになり、大川キャンパスからの参加学生総数は、約370人を見込んでいる。希望国調査説明会は例年、次年度参加を控えた学生を対象に対面で実施しているが、今回はオンライン開催となったため、任意で保護者の方々の視聴も促した。

説明会では、科目概要、渡航先の紹介、希望国調査アンケートの説明に加え、昨今の新型コロナウイルスの状況により学生・保護者に懸念もうかがえることから、本学の危機管理体制、実施可否の判断基準、中止となった場合の流れについても入念な説明を行った。最後に、科目担当責任者の濱本邦洋教授から「大川キャンパスの海外研修のモットーは、自律性・内発性・おもしろさ。研修での学びを通して、自分で考え、感じ、行動できる人になってほしい」と学生へメッセージが送られ、説明会は無事終了した。

(国際係 杉原活郎)

国際医療福祉大学病院

病院長 大和田 倫孝



山形大学卒、医学博士。前自治医科大学産婦人科准教授。日本婦人科腫瘍学会認定指導医、婦人科腫瘍専門医、日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医、日本臨床細胞学会認定細胞診専門医、日本がん治療認定医機構がん治療専門医。

昨年は、新型コロナウイルス感染症、医学部一学期生の臨床実習開始など、忘れられない1年となりました。

新型コロナウイルス感染症により東京オリンピックが1年延期され、11月ごろから第3波が到来しました。当院においても、発熱外来の新設、新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ、一方で救急患者を含む通常業務の維持など、その対策に悩んでいました。

6月からは、医学部4年生の臨床実習が始まりました。実習は、前半（6～10月）、後半（11月～2021年3月）に分かれて、当院では各70人を引き受けました。結果として、医学生ほとんどが当院で実習したことになります。充実した実習を行うため、多くのスタッフが準備を重ねてきました。実習が開始されてからも、よりよい実習にするため医学生と教育スタッフがともに知恵を出し合つて、日々進化する形で続けられました。医学生には、納得のいく実習の場を提供できたと考えています。彼らの中から、将来この地域で活躍する医師が誕生し、医師不足が解消されることを期待したいと思っています。

当院は、塩谷地区二市二町の医療圏の基幹病院の役割を担っております。昨年は、その使命を果たすために、コロナ禍の中で職員が一丸となり、通常診療を守り抜いた1年でした。

昨年、将来の医師育成を手助けできるよう施設、人的体制の整備を目標に掲げ、新たに7人の医師を迎えました。副院長を5人体制とし、常勤非常勤医合わせて47人、26診療科を有し、医療体制の強化を図ることができました。また、院内に新たに感染対策室を設置し、機能の充実も図ることができました。このことは、さぞコロナ対策で力を発揮することになりました。副院長や感染対策室長が中心となり、早い段階でコロナ患者専用病室の整備確保ができました。さらに、感染対策のうえで課題であった当院の動線は、感染防止ゾーンが徹底され、その結果、陽性患者の入院や診療にあたりながら、医学部実習をはじめ、通常診療や業務、研修等を支障なく実施できました。

コロナ禍では、改めて気付かされたこともあり、職員の結束力です。通常診療を維持するため、病棟の運営方法を幾度も変えましたが、すべての職員が迅速に対応してくれました。これは当院の特長であり自慢です。

また、医師会や地元矢板市、関係機関から多くの協力添えをいただきました。改めて、地域の皆様の支えと期待を強く感じることができました。

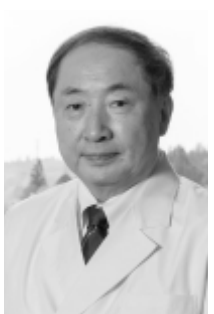
今年も当院の強みを発揮し、地域に根ざした中核病院として、皆様が健康で豊かな人生を送ることができるよう尽力してまいります。

本年もよろしくお願ひいたします。

国際医療福祉大学

成田病院

病院長 宮崎 勝



千葉大学卒、医学博士。前国際医療福祉大学三田病院病院長、元千葉大学大学院医学研究部 臓器制御外科教授。第112回日本外科学会定期学術集会会長、日本肝臓病学会学術名譽理事長。第49回日本胆道学会会長。

当院は2020年3月16日にオープンして、まだ1年足らずの歩みを始めてやっと9カ月が過ぎ、新年2021年を迎えたところです。

COVID-19に追われ続け、当院職員が皆懸命な奮闘をしてくれた2020年が終わり、新たな年が始まりました。しかしながら、このウイルスとの医療の戦いはまだまだこれからもしばらく続きそうです。世界各国（きわめて一部の国を除く）では、国政のトップも次々とコロナウイルスに感染し、まさに世界中が非常事態宣言下にあるといつてもよい危機的状況です。

このような中で、医療を支える我々医療従事者は誰のためにもなく、コロナ感染者のみならず、すべての病気の患者様を守るべく医療に従事せねばならないと、改めて自覚せざるを得ない気持ちにさせられています。新自由主義の時代から脱却し、皆がお互いを思いやり助け合つ、いわゆる「good society」の意味と価値が問われその存在自体が強く求められるべき時代に移つていくように感じています。そのような時代において、我々医療人の役割は、その意味での「good society」を担う一員として、極めて大きな役割が改めて求められるようになっていくと感じます。

我々国際医療福祉大学成田病院のすべての職員とともに、この「good society」における大切な役割の一端を担っていかねばなりません。

始まったばかりの我々成田病院は、地元のみならず、国内の医療機関の1つとしてこれから大きな評価を得ていくことができたらと願う次第です。皆様方のさらなる温かなご支援ご協力を願ひし、新年の挨拶とさせていただきます。

国際医療福祉大学

三田病院

病院長 山田 芳嗣



東京大学卒、医学博士。東京大学大学院麻酔科学教授、横浜市立大学医学部麻酔科学教授、日本麻酔科学会第61回学術集会会長、日本麻酔科学会副理事長を歴任。本学副学長。

当院は東京都の「がん診療連携拠点病院」として高い専門性を誇る集学的がん診療等の急性期医療を行い、「二次救急指定病院」としては、親身な外来診療や入院治療の提供のほか、救急車の受け入れ要請に最大限応じて地域で頼りにされる医療機関をめざしています。

昨年は主要な診療科の部門長に、高梨秀一郎医師（心臓外科）、篠田昌宏医師（消化器外科）、上田和医師（婦人科）、矢田浩崇医師（循環器内科）といった、高名なエキスパートや経験豊富な専門医を多く迎え、診療体制を一層充実させました。

一方で年初早々から瞬く間に拡大した新型コロナウイルスに対しては、当院も当初から院内感染管理を徹底し、PCR等処理能力の高い検査体制や緊急胸部CT撮影体制の構築など、診断機能を強化しました。甲斐あつて、急増する発熱外来や一定数のコロナ陽性患者の入院診療を継続しながら安全性も確保し、通常診療は以前と同レベルまで回復しています。

この新年、東京の感染者数が激増し、入院病床は著しく逼迫し医療崩壊が危惧されています。当院はベッド数291床の中規模病院ですが、この重要な社会的要請に応えて、個室33床の1病棟を専用病棟に改修して1月下旬より運用を開始します。スタッフの負荷は過大となりますが、ひとりでも多く患者様を受け入れるべく全職員が協力して取り組みます。

本年もご指導ご支援をよろしくお願ひいたします。

国際医療福祉大学市川病院

病院長 角田 亘



東京慈恵会医科大学卒、医学博士。国際医療福祉大学三田病院リハビリテーション科副部長、東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座准教授を歴任。日本リハビリテーション医学会認定指導医。

2017年に本学5番目の附属病院として新たにスタートして以来、当院では外来診療・急性期医療のみならず、リハビリテーション医療を含めた慢性期医療を地域の皆様に広くご提供してまいりました。

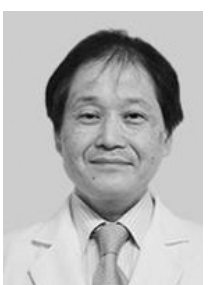
昨年7月には神経難病センターを開設し、すでに千葉県内の多くの施設から神経難病患者様を受け入れております。また、昨年9月には回復期リハビリテーション病棟を増床し、より多くの患者様に本学伝統の質の高いリハビリテーションをご提供する体制を整えました。さらには、地域における新型コロナウイルス感染症対策にぜひ貢献したいとの思いで、昨年11月から発熱外来を開設しています。教育面においては、昨年6月より当院リハビリテーション科と呼吸器内科を中心に、本学医学部の臨床実習が開始されています。

新型コロナウイルス感染症収束の兆しがみられず、多くの方々が不安の中で生活を送つておられる状況ですが、当院は今後も「地域の皆様へ、大学病院の名に恥じぬハイレベルな医療を、真心を込めてお届けしたい」との思いで、職員一同が診療内容のさらなる充実とレベルアップに努めます。これらも、当院は地域の皆様にとって、「かかりつけ医のような大学病院でありたい」と思っています。

本年も何卒一層のご指導ご支援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

国際医療福祉大学熱海病院

病院長 池田 佳史



慶應義塾大学卒、医学博士。慶應義塾大学客員教授。日本消化器外科学会認定指導医・消化器外科専門医、日本外科学会認定指導医・外科専門医。

2020年は、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう1年となりました。当院も2020年2月から帰国者・接触者外来を設置し、陽性患者、疑似症患者、発熱患者の受け入れを行ってきました。9月には協力医療機関として静岡県から指定を受けたほか、11月には発熱等診療医療機関の指定を受け、院外に発熱外来を設置しました。11月以降は重点医療機関として、病院全体で当該疾患に悩む多くの患者様の受け入れと治療に全力を注ぎました。多くの症例がある中でこれまで院内感染もなく対応できたのは、病棟や外来はもちろんのこと、医師・看護師・医療専門職・事務職等が有機的な連携を図ってきたことが大きく、私自身も誇りに感じています。

今もなお新型コロナウイルス感染症が流行していますが、今年度から地域がん診療病院として「設備の充実、救急医療体制の整備、予防医学の拡充」を3本の中期目標と考えています。

2021年という年を当院の飛躍の第一歩とするよう、より一層人材育成と連携を大切に病院運営を進めていきたいと考えています。

本年も皆様方のご支援ご指導をよろしくお願ひ申し上げます。

国際医療福祉大学リハビリテーションセンター

センター長 下泉 秀夫



徳島大学卒、医学博士。元栃木県身体障害医療福祉センター医務科長。国際医療福祉大学大学院教授。

心身の障害や発達障害等における地域の医療と療育の中核である「なす療育園」と、身体に障害を持つ方を対象とした施設入所支援等のサービスを提供する「サポートハウス那須」からなるリハビリテーションセンターは、昨年、開設20年という節目の年になりました。

折しも新型コロナウイルス感染症の災禍による社会的混乱の中、国際医療福祉大学市川病院、国際医療福祉大学塩谷病院の協力によりPCR検査体制等の感染防止対策を整え、当センターをはじめとする邦友会各施設ではこれまで大禍なく運営ができており、国際医療福祉大学の実習施設としての役割におきましても、無事にその責任を果たすことができました。

改めて、心より感謝申し上げます。引き続き、新型コロナウイルスへの警戒と新しい様式に沿った対応が求められることと思いますが、今こそ当グループの一員として結束・連携し、邦友会各施設とともに、この困難を乗り越えるべく対処してまいれる所存です。

本年も、ご指導ご支援をよろしくお願ひいたします。

新宿けやき園施設

施設長 杉原 素子



お茶の水女子大学文教育学部卒、教育学修士。南カリフォルニア大学作業療法士資格取得コース修了。前日本作業療法士協会会長、日本作業療法士連盟会長。

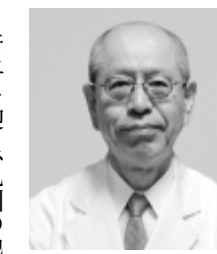
日本の年明けは、いや、世界中がコロナ禍のお見舞いの言葉であふれました。特別養護老人ホームと障害者支援施設を併せ持つ新宿けやき園の感染予防対策は、優秀な職員たちの知恵や技能のおかげで徹底され、これまで何事もなく運営が続けてきております。

当園は、東京都では2番目に感染者の多い新宿区にあり、しかも話題になった歌舞伎町やその他繁華街の近くに位置する住宅街にあります。地域コミュニティとの密接な連携に基づき、さまざまなクラブ活動は中止、また各キャンパスからの若人の集団つまり実習生の姿も声もなく、ご家族の方々の面会制限は続き、という状況の中で、2021年を迎えました。

ただし、元旦にはユニットごとにお屠蘇巡りをし、笑い声が絶えませんでした。「桜の花が咲くころには……」を合言葉に、ミャンマーからの特定技能の方々10人と春を待ちます。

高木病院

病院長 外 須美夫



九州大学卒、医学博士。九州大学名誉教授。前九州大学大学院医学研究部麻酔・蘇生学教授、前九州大学病院副病院長（危機管理・安全管理担当）。

新年を迎え、九州の地よりご挨拶いたします。

理事長の御名をいただく高木病院は、高齢化・過疎化が進む地方圏域にありながら506床を稼働させ、救急医療から高度医療まで、不妊、小児医療から超高齢者医療まで、周辺住民の生命の尊厳と平等を守るといふ使命を果たすべく、24時間体制で診療に取り組んでいます。

昨年来コロナ対応に追われる毎日ですが、病院に求められるのは、結束であり、連帯であり、信頼であり、相互愛であり、規律遵守であると、改めて思い知る機会にもなっています。

当院は隣接する大川キャンパスや他の施設から、多くの学生を実習生として受け入れています。昨年から成田キャンパスの医学部生も臨床実習に加わり、都会の若い学生に九州人的泥臭い人間愛を教えています。

本年もご支援ご鞭撻をよろしくお願ひいたします。

国際医療福祉大学病院

リモート面会の試験運用をはじめました

新型コロナウイルスが感染拡大する中、当院でも入院患者様の安全を守るため「面会は原則禁止」とさせていた。ご家族には「ご不便・ご迷惑をおかけしており、」などとして顔が見たい、声が聞きたいといった要望が絶えない。

そこで、タブレット端末を用いた「リモート面会」の試験運用を開始した。



●モバイル面会の様子

リモート面会では、ご家族と病室の患者様の双方にタブレット端末を貸し出してオンラインで接続、テレビ電話のように顔を見ながら会話を楽しくしていただける。貸し出しをする端末は、感染症予防の観点からラップでくるみ、使うたびに消毒を行っており、安心して利用いただけるよう対策に努めている。また、端末には標準配備のアプリケーションを用い、セキュリティ面の不安要素も可能なかぎり排除している。

さらに、これらの端末はオンライン面会だけでなく、新型コロナウイルス陽性患者が入院した際、無症状や比較的症状が軽い患者の看護にも応用が可能だ。特に、入室を要しない案件であれば、タブレット端末を用いた病室内外のコミュニケーションにより、十分な効果を発揮することができる。

今後も厳しい状況が続くと予測されるが、このような支援金や補助金を最大限活用し、一部の病棟に限定されているリモート面会を全病棟に広げ、少しでも患者様やご家族の不安を払拭し、同時に医療職の負担を軽減していければと考えている。

(総務課 中澤彩乃)

国際医療福祉大学塩谷病院

よりよい職場環境づくりのための発表会

働きやすい職場環境づくりを進めようと、当院のWLB(ワーク・ライフ・バランス)推進会議は12月18日、院内の取り組みを紹介する発表会を開催した。5回目を迎えた今年は30人が参加。本発表会では、6月に実施した勤務環境アンケート結果をもとに、各部署から課題解決に向けて取り組んでいる様子が発表された。どの部署も業務の効率化をめざし、OJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)職場内訓練をはじめ勉強会や研修会を通しての資質の向上や、フオー体制の強化などに取り組む、時間外の削減、休暇の取得しやすい職場環境づくりで成果が上がっていることなどを披露した。



●発表内容を熱心に聞き入る参加者

総評として、村上充子看護部長が「知人から、塩谷病院は清潔であり、職員の制服の着こなし、笑顔や対応が自然にできて素晴らしいと評価いただいた。どの部署もコロナ禍で人的余裕がない状況が続いているが、さまざまな職種の連携力の強さが当院の特長。小さなことでも、協力し合って少しずつ改善できれば、よりよい職場環境づくりにつながる。がんばりましょう」と職員を激励し締めくくった。

(総務・人事課 三堂地陽一)

国際医療福祉大学成田病院

成田市等からのイルミネーション寄贈市長、うなりくんが点灯式に

12月22日、3万球のLEDで飾られたイルミネーションの点灯式を当院の北玄関前で行った。このイルミネーションは成田市と地元山崎電設工業(株)より、「医療従事者に対する感謝と応援につなげたい」という申し出をいただき実現した。点灯式には成田市の小泉一成市長、関根賢次副市長をはじめ、市議会議員や同市キャラクター「うなりくん」が出席。



●宮崎病院長をセンター(↑)に、小泉市長(左)と関根副市長(右)

国際医療福祉大学三田病院

新型コロナウイルス感染症対策総括

一昨年12月より世界的に猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症に対し、当院ではいち早く体制を整え対応にあたってきた。3月にはコロナ専用病床を確保し、東京都や保健所の要請に応え、これまでに約90人の入院患者を受け入れてきた。

外来診療においても、帰国者・接触者外来の指定を受け、これまでに延べ1300人を診療。5月に開始したPCR検査も、昨年末には他のグループ関連施設に先駆けてロシニ社製RT-PCR検査機器ライトサイクラーを導入。さらに充実した検査体制となり、現在では抗原定量検査を含め、1日に最大200件の検査が可能だ。また、6月より入院患者全員に対する検査を実施するなど、感染対策本部を中心にさまざまな施策を導入し、院内における感染拡大を未然に防いだ。



●個室フロア全室を陰圧管理可能に

この1月、東京都では感染拡大が深刻だが、当院でも都の医療体制を守るため入院病床を拡充し対応にあたっている。終わりの見えない戦いが続いているが、すべての患者様に安心して受診いただけるよう、引き続き尽力し

(感染対策本部 長谷川典昭)

ーションが点灯すると、ご来院の患者様やご家族から一斉に歓声が上がった。

オブジェは、3m以上の巨大なうなりくんや、成田市の木である「梅」をイメージしたものなどさまざま。小泉市長のほか、成田市や酒々井町など地域の方々が、個性あふれた電球で飾られており、敷地内はとても華やかなスペースになった。

3月14日まで毎日点灯中のイルミネーションに力をいただき感謝しながら、緊急事態宣言が再発令されたコロナ禍で、スタッフ一同、改めて気を引き締めがんばっていく決意だ。

国内初の国産コロナワクチン臨床試験が当院でスタート

当院感染制御部の松本哲哉部長(医学部感染症学主任教授)協力のもと、国内初となる新型コロナウイルスに対する国産ワクチンの臨床試験が始まっている。ワクチンの実用化に向け今後の行方が注目される。

(広報室 七島寛子)

国際医療福祉大学市川病院

オンライン地域医療連携会議を開催

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が発令され、会議やイベントなどの開催が制限される中、当院ではオンラインでの地域医療連携会議を開催することになった。

国際医療福祉大学熱海病院

「第5回 医療連携協議会」を開催

「第5回 医療連携協議会」を12月22日、当院大会議室において開催した。最初に熱海市医師会の渡辺英二会長が挨拶し、新型コロナウイルス感染症拡大による地域医療の現状に触れ、「お互いが連携・協力し、難局を乗り越えていきたい」と意気込みを語られた。



●質問を受ける永嶋准教授

この連携協議会では、泌尿器科の石井淳一郎副院長が座長を務め、循環器内科部長の永嶋善幸准教授が「心疾患と睡眠時無呼吸症候群の連関」と題して講演した。また、「熱海病院消化器内科診療(No data)」をテーマに、消化器内科の滝本恒行医師が「内視鏡的な糞便破碎により腸閉塞を回避した1例」、続いて同科の高柳卓矢医師が「内視鏡的乳頭ラージバルーン拡張術(ELBD)」により胆管結石を採石した1例について講演した。

消化器内科の講演では、渡辺会長をはじめ、当院消化器内科の留野渉副部長と加藤孝征医師がパネリストとして加わり、参加された近隣医療機関の先生方から症例に対する質問などが多く寄せられた。

(総務課 村山京二)

これは、インターネットのオンライン会議システム(Zoom)を利用し、当院の医師が専門分野の取り組みを紹介した後に参加者から質疑を受けるもの。毎回、担当する医師が専門分野から議題を決めて講演(30〜40分程度)した後、質疑・懇談(15〜30分程度)を設ける。

第1回は

1月26日(火)

19時から、当

院神経難病

センターの役

割」をテーマ

に、神経難

病センター

長の荻野美

恵子医師が

講演。第2

回は2月16

日(火) 19時

から、「糖の

流れのその

先へ」と題し

て、糖尿病・

内分泌代謝

センター長の

野見山崇医

師が、第3回

は3月23日(火)

19時から、「最新

の脳卒中リハ

ビリテーション」と題して、リハビ

リテーション

科部長の久保

仁医師が、そ

れぞれ講演す

る。

参加は登録制

で、申し込ま

れた方にID

とパスワード

を送付する。医

師やメディ

カルスタッフの方

で興味のある

方、お問い合わせ

は、事務局

(itec-mi@iuhw.ac.jp)

までご連絡を

いただきたい。

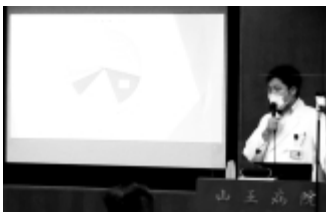
(総務課 地域医療

連携推進室 細田幸生)

山王病院

東京ボイスセンター特別講座「声の治療と手術」を開催

12月26日、東京ボイスセンター特別講座「声の治療と手術」を開催した。昨今は、新型コロナウイルス感染症の影響で、人と話す機会が減ったり、常にマスクを着けているため声を大きく出し過ぎたりして、声に違和感を覚える方が多いことをよく耳にする。そのようなニーズを踏まえ、新しく着任した先生方の紹介を兼ねて開催した。感染症対策を意識し、会場参加と後日録画視聴の2通りで申し込みを募ったところ、会場10人、録画約40人の申し込みがあった。



●講義をする長谷川智宏医師

当日は、渡邊雄介センター長の挨拶の後、廣崎真柚医師と長谷川智宏医師の講義が続いた。普段はなかなか見たり聞いたりすることができない、手術や声帯の動画や、治療前後の音声などを用いた講義内容となり、参加者からは「とてもわかりやすかった」との声が多く聞かれた。また、今回は当院の講座では初となる、Zoomによる同時配信を行った。後日録画視聴は、日時を気にせず参加できるメリットはあるが、このリアルタイムでの配信は録画では感じることができない、演者や会場との一体感を届けることができた。初の試みでいくつか課題も見つかったが、今後改善して、他の講座にも展開していきたい。

(総務課 山本悦子)

2020年度前期は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、各キャンパスでのクラブ・サークル活動を中止していましたが、後期より各団体に感染防止対策を徹底しながら順次、活動を再開しています。
今号では小田原キャンパスから、コロナ禍に負けず、頑張って活動をしている2つのクラブ・サークルを紹介します。

スポーツコンディショニング部 (小田原キャンパス)

スポーツコンディショニング部は、理学療法学科の学生を中心に活動しており、4年生4人、2年生11人、1年生13人が所属しています。



●顧問の先生に指導を受けながらの実技練習

例年、小田原で開催される「ツデーマーチ」というウォーキングイベントに参加し、参加者の方にストレッチを行うという活動がメインとなってきましたが、昨年は新型コロナウイルスの影響により、残念ながらイベントが中止に

なっていました。

前期の授業がオンラインになり、実際に実技の練習ができなかったこともあり、部活動の再開が許可されてからは、前期に実施できなかった実技の練習を顧問の先生に教えていただくなど、実技試験のための練習をメインに活動を行いました。

実技練習では、人と人の距離が近くなるので、手指消毒や体温測定だけでなく、使用する器具の消毒をはじめ、ビニール手袋を着用するなど感染対策を徹底しました。練習の際は1年生と2年生でペアを作り、相手に教えながら練習することで自分自身の理解を深めることができたと感じられ、自信になりました。また、顧問の先生に実際にご指導いただいたことで、教科書には載っていないポイントや手技のコツなども幅広く学ぶことができました。

ここでの活動を通して学んだことを授業だけではなく、実習などでも部員が1人ひとり生かしていけるよう頑張りたいと思います。

小田原保健医療学部 理学療法学科
2年 野上佳楠

バレーボールサークル (小田原キャンパス)

こんにちは。小田原キャンパスで活動しているバレーボールサークルです。私たちは週1回(木曜日)、城内校舎の体育館で活動しています。公式戦に出場することはありませんが、バレーの経験者、未経験者にかかわらず毎週楽しく活動しています。部員数は1・2年生を合わせて約50人と、



●城内校舎での練習風景

とても多いので学年学科の垣根を越えて多くの仲間をつくることのできるのが他団体と違う特長でもあります。

今年は、新型コロナウイルスの影響で前期は、まったくサ

ークル活動ができませんでした。しかし、後期が始まり、活動を再開するために、学生系の職員の方々にも協力していただきながら、11月から、活動を始めることができました。

まず、練習の開始前には、体育館のドア、窓をすべて開け、換気を徹底しました。また、準備運動をはじめ、活動中は部長、副部長が中心となり、学生同士のマスクの着用を確認したうえで、練習を行いました。バレーボール協会のガイドラインも参考にして、練習中だけではなく、練習後の道具の後片付け、使った道具の消毒など、学生同士でいろいろと考えて、さまざまな感染予防対策を行いました。

また、このような感染対策をしながらの部活動の再開はとても大変で、活動時間もコロナ禍前よりも短縮してしまいましたが、改めて、練習に参加した部員たちに「時間を大切にしよう」という意識が生まれました。その結果、練習内容が濃い充実した活動ができるようになったと実感しています。

年度が変わるとメンバーも新たに入れ代わることになりましたが、改めてバレーボールが大好きな部員と集まってみんなで一緒にプレーしたいと思います。

小田原保健医療学部 看護学科
2年 岳下直央

新型コロナウイルスに対する取組み

新型コロナウイルスが日本で確認されてから、一年が経ちました。本学グループでは、国難と呼ばれる今回の新型コロナウイルス感染問題に、全学をあげて取り組んでいます。

ここでは、新型コロナウイルスをめぐる動きの陰で、本学グループがどのような社会貢献をしてきたか、その取組みについてご紹介します。

●税務大学校(武漢からの帰国者受入施設)支援

新型コロナウイルスが日本で広がり始める最初のころ、中国の武漢市からのチャーター便で日本人が帰国した映像を、テレビでご覧になった方も多いのではないのでしょうか。

帰国された方々は、政府が用意した宿泊施設に入りました。実は、この宿泊施設の運営について、政府からの要請により、本学の感染の専門である医師と看護師を派遣し、医療サポートをしました。

●ダイヤモンド・プリンセス号支援

横浜大黒ふ頭に停泊し、感染者多発で問題となったクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号では、厚生労働省の要請を受け、船内に残る乗客・乗員の検体採取やPCR検査、さまざまな医療支援を行いました。

本学の感染症対策専門家や、熱海病院ならびに塩谷病院の災害派遣医療チーム(DMAT)の医師、看護師、薬剤師など延べ51人が活動しました。

●成田病院開院前倒して陽性患者受入れ

本学6番目の附属病院で、医学部の本院となる国際医療福祉大学成田病院は、当初4月1日の開院予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、大学病院としての社会的責任を果たすべく医療体制を整え、3月16日に開院を前倒しました。

地域住民の健康を守るため、当初は内科・総合外来と発熱・感染症外来のみの完全予約制で、対応しました。

●検査体制の拡充

本学グループでは、いち早くPCR検査機器の配置を進めました。現在、一日に約1,000件の検査が可能です。

実習前の全学生、入院前のすべての患者様、体調変化を感じた全ての職員にPCR検査を実施し、院内感染やクラスターを徹底的に防止することに努めています。

※2021年2月現在

IUHWに所属する感染症学のエキスパート

本学グループには、感染症学、公衆衛生学の専門家が多数在籍しています。皆さんもマスメディアや講演会などで、その姿を見たことがあると思います。教育、研究、診療の他、私たちが働く職場での感染対策・指導も担っています。



国際医療福祉大学成田病院
国際臨床感染症センター 感染制御部部长
国際医療福祉大学 医学部感染症学主任教授
日本感染症学会 評議員

松本哲哉



国際医療福祉大学大学院
医学研究科 医学専攻・公衆衛生学専攻 教授
厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策
アドバイザリーボード参加メンバー

和田耕治



国際医療福祉大学
未来研究支援センター講師
日本環境感染学会理事
(看護師資格保有)

藤田烈

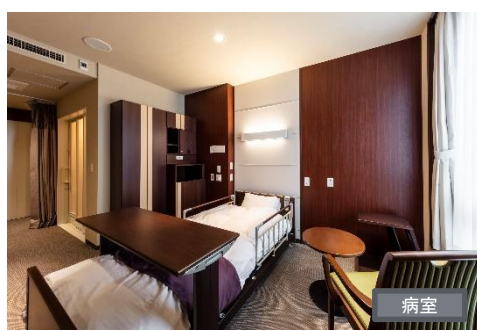


国際医療福祉大学成田病院

IUHW NARITA HOSPITAL



総合待合室



病室



職員寮

成田病院は、2021年3月、最高水準の医療機器と充実したアメニティを備え、救急、感染症、周産期、リハビリテーション等多くの分野で開院しました。
このたび642床のフルオープンに向け、経験豊富な看護師の方を募集します。

▼ 募集職種

● 看護師（経験者・管理者）

病棟、ICU/HCU、手術室、ER、
外来、健診等での看護業務

職員寮、進学支援、託児施設あり

▼ 応募書類送付・お問い合わせ先

応募書類：希望職種を明記の上、履歴書（写真貼付）・職務経歴書を下記住所までお送りください。

〒286-8520 千葉県成田市畑ヶ田852 国際医療福祉大学成田病院 人事課

<お問い合わせ> TEL 0476-35-5641 E-mail : narita-hp.saiyo@iuhw.ac.jp

看護師（経験者）・看護補助者のための就職説明会開催中！

日時：2021/2/27（土）、3/5（金）、3/13（土）、
3/19（金）、3/27（土） 全日程共通 13:00～

場所：国際医療福祉大学成田病院 成田国際ホール

（千葉県成田市畑ヶ田852※成田駅からバス/車で約15分）

👉 説明会ご予約、会場へのアクセス確認は下記URLから
<https://kango.iuhw.ac.jp/narita/index.html>

携帯・スマホの方
はこれから→

